▲新蘆面命(しんろめんめい)
高知県立高知城歴史博物館所蔵　山内文庫(谷家本)

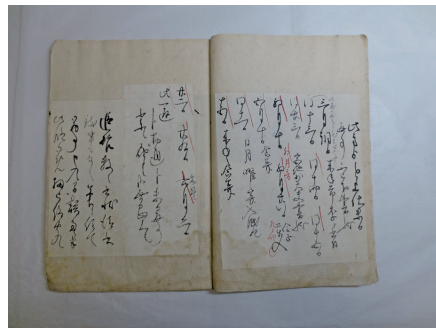
初対面の印象は？！

10年越しにかなった師との初対面時の様子を秦山は、『新蘆面命(しんろめんめい)(※)』に記述している。

（意訳）助左衛門(渋川春海)殿は、60歳あまりのやせた老人で、質朴といえばそうなのだろうが、文字一つ読めなさそうな人に見えた。あの人がこれまで私に大切なことを教えてくれた人だったのか、と、驚くばかりであった。

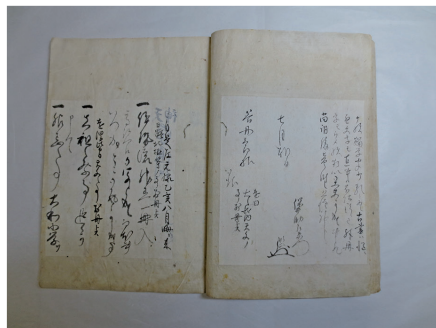
なかなかに辛辣(しんらつ)なように思えますが、渋川春海の人となりを見たままに述べていて、秦山の師に対する飾りのない感想は、すがすがしく好感がもてるものではないでしょうか。

※新蘆は春海の号、面命は丁寧に教えること。

天柱密談から見る秦山の人柄

もっともっと、学びたいことがたくさんあります（秦山）

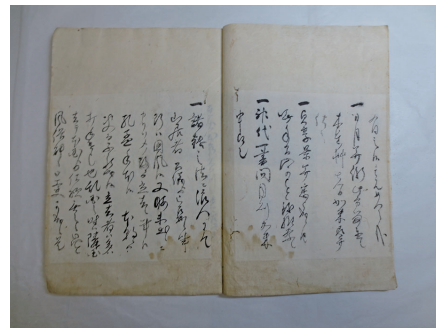
時には数日間続けて手紙や質問書を書くことも。手紙は、江戸へ向かう知人に託したり、藩の船便などの出る機会にまとめて送っていたようです。

・まだお返事が届いていない手紙のリストです。(秦山)

チェックしましたよ。(大体まだ手元にあります・・・春海)

先生からもらった手紙は宝物、きっちり整理

手紙の端には、送った日、届いた日をきっちりメモ。

年代順に整理するのはもちろん、質問の回答や添削してもらった原稿は、部門ごとに別冊にまとめている。

・重遠曰：天文関係の分は別冊を作成。

提出が多すぎて添削が追い付きません・・・（春海）

春海のもとには、秦山から次々に質問や添削依頼が届きました。それに答える春海はずいぶん長く手元にためておいてから、まとめて返していました。もちろん、秦山の質問や添削にはきちんと答えてくれていました。

返信がないことに気をもんだ秦山は、なにかあったのか、時々、問い合わせまでしていたようです。

・「日月算術」はまだこちらの手元にあります。

「木星艸」には先日、朱を入れて返しました。

・貞享歴の計算が全部終わったとのこと。

さぞ大変だったことでしょう。(春海)

特集『学聖 谷秦山』はいかがでしたでしょうか。今回の特集は、左に紹介する2冊の本から抜粋して作成しました。秦山についてもっと知りたいと思ってくれた方、市立図書館で貸し出していますので、ぜひ、ご覧になってください。

▲星を見る人
編集：高知県立高知城歴史博物館

▲学聖・谷秦山
発行所：香美史談会

▲天柱密談(てんちゅうみつだん)　高知県立高知城歴史博物館所蔵　山内文庫(谷家本)
谷秦山と渋川春海の間でやりとりされた往復書簡集。端書には谷秦山自筆で到来日などの情報を記し、往復状況を丁寧に管理していたことがうかがえる。

秦山の天文暦学は渋川春海とともに

秦山といえば、南学復興の功績が示す通り、神道・儒学者のイメージが強いですが、天文暦学においても、多大な功績を残しています。高知城の位置が北緯33度半強であると測定したのは、秦山32歳の時で、伊能忠敬に先んじること114年も前になります。当時、緯度を正確に測定したのは、イギリス人と秦山が同時期であったのではないかと考えられています。これは、秦山が天文暦学において、数学的なものより、渾天儀などを活用した、観測を重んじていたからではないでしょうか。

先にも紹介しましたが、秦山の天文暦学は渋川春海との通信教育の形での教えが重要な役割を持っていました。その往復書簡の内容を見ると、秦山の人柄が少し見えてきます。最後に、秦山の人柄に迫っていきましょう。

▶秦山の孫弟子にあたる川谷薊山（けいざん）が土佐藩主に献上したとされる渾天儀　高知県立高知城歴史博物館所蔵